

2. 将来の人口・世帯

新町の将来の人口・世帯は、次のように設定します。

(1) 人口

総人口

新町の総人口の推移をみると、今後も減少する傾向にありますが、2町合併の効果を生かし、また、新町の振興を図る施策が盛り込まれた新町まちづくり計画に取り組むことにより、平成26年における人口を、概ね18,000人に想定します。

年齢別人口

年齢別人口については、年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)は減少が続き、総人口に対する構成比も低下する見通しです。

老年人口(65歳~)については増加し、総人口に対する構成比も高くなることが想定され、平成26年では約30%になる見通しです。

人口・世帯数の見通し

(単位：人、世帯)

区 分	国勢調査			見通し
	平成2年	平成7年	平成12年	平成26年
総人口(人)	20,226	19,629	18,601	18,000
年少人口	4,087	3,537	2,906	2,520
0~14歳人口(%)	20.2%	18.0%	15.6%	14.0%
生産年齢人口	12,200	11,526	10,662	10,080
15~64歳人口(%)	60.3%	58.7%	57.3%	56.0%
老年人口	3,939	4,566	5,033	5,400
65歳~人口(%)	19.5%	23.3%	27.1%	30.0%
世帯数(世帯)	5,511	5,587	5,565	5,700
1世帯当人員	3.7	3.5	3.3	3.2

就業人口

就業人口については、平成26年で9,200人程度になる見通しです。

産業分類別では、第1次産業、第2次産業に就業する人口が減少し、第3次産業の就業人口が増加する傾向が続くものと予想され、平成26年では第1次産業の就業する人口の構成比が13.9%、第2次産業が31.0%、第3次産業が55.1%になる見通しです。

産業別就業人口の見通し

(単位：人)

区 分	国勢調査			見通し
	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 26 年
総就業人口(人)	10,217	10,166	9,217	9,200
就業人口比率	50.5%	51.8%	49.6%	51.1%
第 1 次産業(人)	2,015	1,902	1,289	1,280
	19.7%	18.7%	14.0%	13.9%
第 2 次産業(人)	3,256	3,086	2,947	2,850
	31.9%	30.4%	32.0%	31.0%
第 3 次産業(人)	4,936	5,144	4,937	5,070
	48.3%	50.6%	53.6%	55.1%

(2) 世帯数

世帯数は、平成 26 年では 5,700 世帯となる見通しです。1 世帯当たりの人員は、従来から減少が続いており、また、核家族化の傾向が続くことが予想され、3.2 人となる見通しです。

3 . 地域の基本的構成

(1) 新町の広域的な役割

新町は、国内、また近畿圏等において、次の重要な広域的役割を担っており、今後もさらにその役割を果たすことが求められています。

豊かな自然環境に育まれた美しいふるさとづくり地域

当地域の内陸部は 1,000m級の高原地域、平野部は日本海に面する広大なエリアで、自然との調和が図られた農山漁村が共存する多自然型居住地域であり、自然度の高い環境を生かした美しいふるさとづくりの先導的な役割を担っています。

海、山、温泉を活用した健康保養・集客地域

当地域は、高原、日本海に至る雄大な自然環境を有し、年間約 130 万人の入込客や多くの交流人とのふれあいが展開されています。特に、優れた泉質、湧出量を持つ温泉郷が連なり、夏は海水浴、冬はスキーと多彩な観光・レクリエーションの一大拠点となり、年間を通して域内外の人々の健康・保養活動が展開され、健康の増進と生きがいを育む役割を担っています。

近畿と山陰の日本海連携拠点地域

当地域は、近畿と山陰の結節点であり、歴史・風土、文化、産業が相互に密接に関連するなかで、近畿と山陰の連携を促進する拠点地域であり、また、鳥取市と豊岡市の中間にも位置し、地域高規格道路鳥取豊岡宮津自動車道等の交流基盤の強化によって日本海国土軸及び T・TAT 地域連携軸形成の重要な役割を担っています。さらに、環境負荷が低く、高齢者や児童・生徒等の大量輸送に優れる鉄道利用では、京阪神地域へ豊岡方面と鳥取方面の 2 ルートでのアクセスが可能であり、災害時等における移動の優位性も併せもった地域です。

魅力ある食文化を提供し創造する良質で安全な食糧生産供給地域

日本海沿岸有数の漁獲量を誇る漁港を有し、松葉ガニ、スルメイカ、ハタハタ等日本を代表する海の幸や但馬牛などのブランド、高原野菜、二十世紀梨などの特産生産、水産加工、但馬杜氏などの技術力を生かし、豊かな食文化を育み、良質で安全なタンパク源である海産物をはじめ多種多彩な食糧の生産供給地域としての役割を担っています。

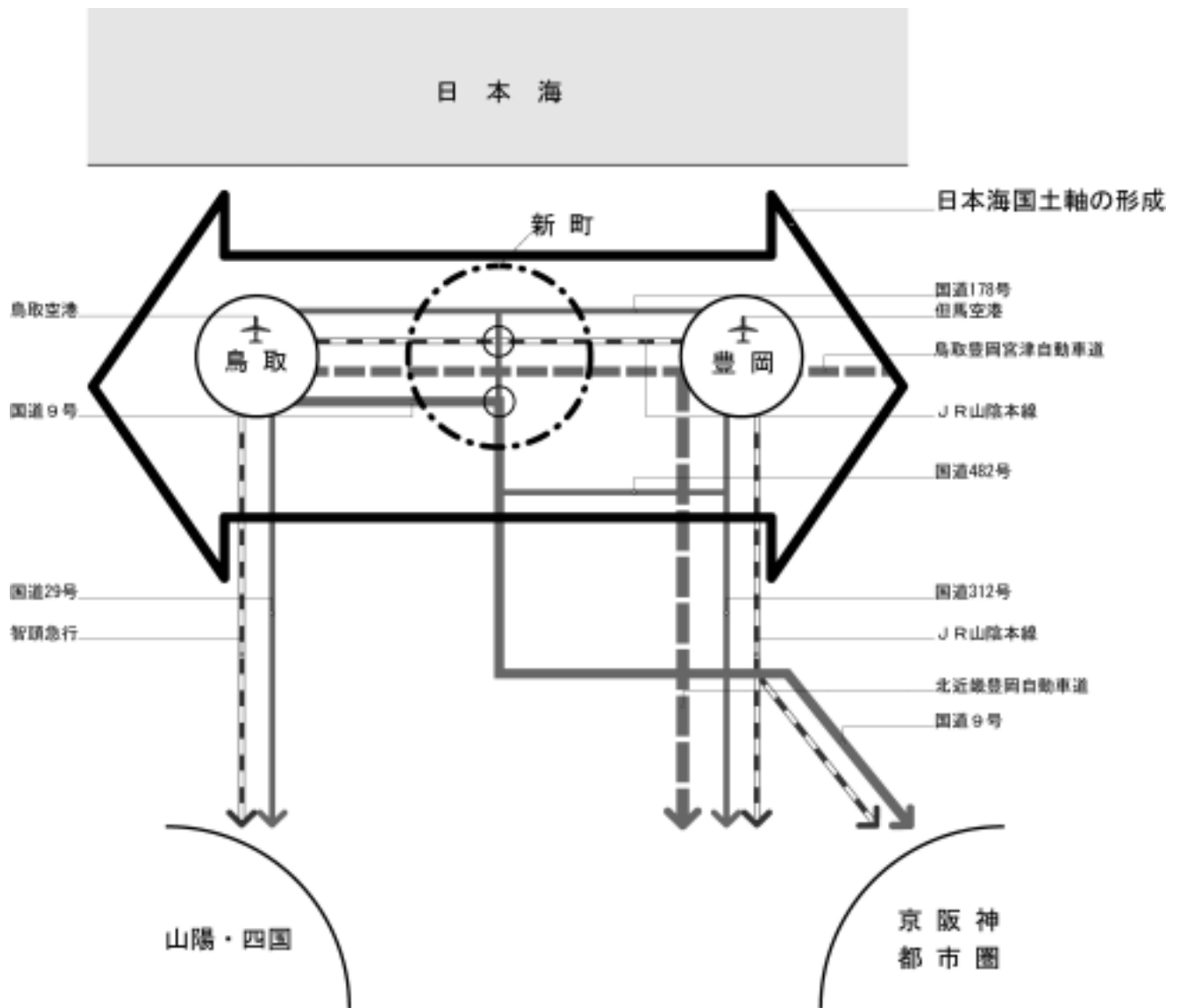
世界自然遺産の登録推進や歴史的学術文化を保護、継承し、自然との共生を展開する地域

国立、国定、県立自然公園が連なる環境のなかで、自然とのふれあい、共生を学ぶ貴重な役割を担っています。また、浜坂の波蝕海岸地形など、地質学、景観上世界的な評価を得ている山陰海岸は世界自然遺産の登録候補地に選ばれ、地球規模での環境保護活動が求められています。さらに、日本を代表する著名な歌人や登山家等の作品、資料が数多く保存、収蔵され、貴重な学術文化を継承する役割を担っています。

*** T・TAT 地域連携軸とは**

丹後・但馬から阿波、土佐にかけて、諸機能の充実とそれぞれの連携の強化によって、地域の活性化、日本海から太平洋にかけての様々な交流の活発化を図る地域連携軸。T・TAT の名称は各地域のローマ字表示の頭文字をつないだもの。「21世紀の国土のグランドデザイン」(平成10年3月 国土庁)を踏まえた「近畿圏基本整備計画」(第5次)(平成12年3月)の戦略的な連携軸の一つとして位置づけされている。

広域的な位置図



(2) 新町の地域構造

新町の土地利用及び都市構造を、点、線、面の視点から、核（都市機能の点的な集積）、軸（ある一定の幅をもって都市機能が線的に束ねられた線的な集積）、ゾーン（土地利用の面的な広がり、まとまり）で設定します。

核

[中心核]（ふるさと核）

2町の役場周辺を中心核（ふるさと核）として位置づけ、地域サービスの機能の充実を図り、各地域の歴史など、特色を生かした魅力づくりを進めます。

ア．海の資源と先人文化、国民保養温泉地を生かした健康都市の創造拠点（浜坂町）

海中公園、白砂青松の海岸や海産物等の自然資源を生かした観光交流拠点、著名な先人の文化遺産を生かした歴史・文化拠点、国民保養温泉地の指定や医療関連施設等を生かした健康・保養拠点、高規格道路や鉄道による但馬の西玄関として、広域的な行政や生涯学習交流を推進する都市的拠点機能強化を図ります。

イ．海・山・温泉の魅力を融合した観光交流の推進拠点（温泉町）

高温で湯量が豊富な歴史的温泉、夢千代日記の舞台としての知名度の高さを生かした観光交流拠点、但馬牛や二十世紀梨等の特産振興拠点、但馬牧場公園や上山高原、生涯学習のむら等のふれあい交流拠点、海と山の間地点に位置する立地特性を生かした但馬内観光ネットワーク化、高度情報発信など観光連携拠点機能強化を図ります。

[地域核]

地域コミュニティのまとまりを考慮した日常生活圏を中心地域核として位置づけ、生活サービス機能の充実を図ります。

広域軸・都市軸

[山陰海岸連携交流軸]

日本海国土軸形成を担う新町の海岸地域の東西の広域軸で、山陰海岸を環境形成軸、JR山陰本線・国道178号・鳥取豊岡宮津自動車道を広域交通軸と位置づけ、隣接地域との都市的機能及び交流機能の連携交流の強化を図ります。

[山陰内陸連携交流軸]

日本海国土軸形成を担う新町の内陸地域の東西の広域軸で、国道9号を広域交通軸と位

置づけ、隣接地域との都市的機能及び交流機能の連携交流の強化を図ります。

[岸田川ふるさと核連携交流軸]

2つの中心核（ふるさと核）を結ぶ岸田川中・下流地域の都市軸で、主要地方道浜坂温泉線を交通軸と位置づけ、新町内のシンボル軸となる連携交流の強化を図ります。

ゾーン

[行政・賑わい（D I D地区）ゾーン]

浜坂中心市街地の人口集中（D I D）地区のゾーンで、新町の玄関機能、行政や商業機能等の都市的機能の整備充実を図ります。

[観光ふれあいゾーン]

湯村温泉街とその周辺の国道9号沿道を中心としたゾーンで、新町の宿泊機能を中心とした観光・交流機能の整備充実を図ります。

[海岸ゾーン]

山陰海岸の沿岸ゾーンで、海・河川・山地の自然との共生を考慮した漁業、農漁村集落、観光・海洋レクリエーション地域としての整備充実を図ります。

[森ゾーン]

岸田川中流の東西に展開する山林ゾーンで、森林等の自然との共生を考慮した農業、農村集落地域の整備充実を図ります。

[田園・高原ゾーン]

新町の南東部に展開する田園・高原ゾーンで、自然景観の保全等の自然との共生を考慮した農業、観光交流、農村集落地域の整備充実を図ります。

[高原ゾーン]

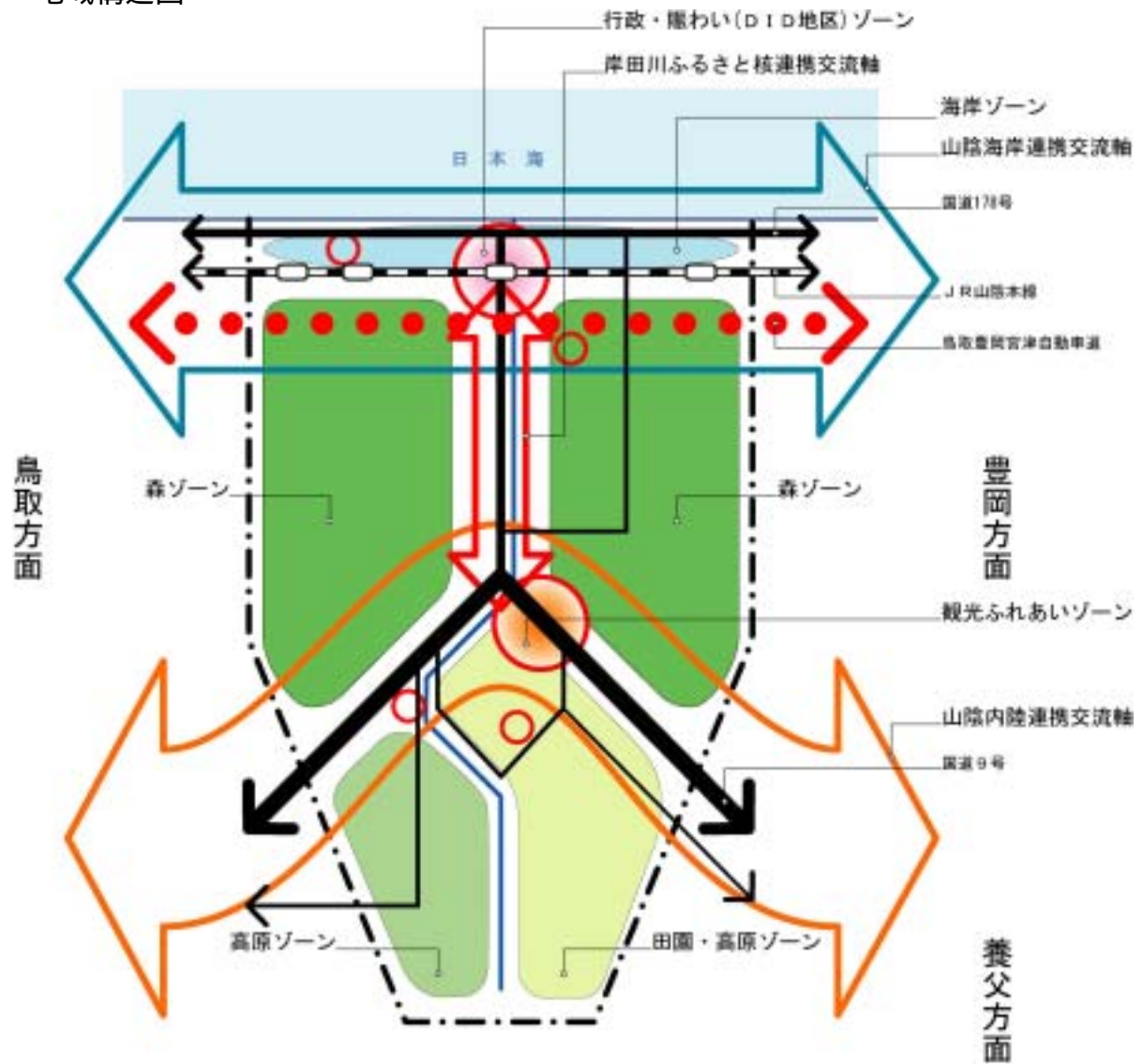
新町の南西部に展開する高原ゾーンで、自然度の高い貴重な自然との共生を考慮した参画と協働、交流についての全県的なモデル地域としての整備充実を図ります。

*** D I D地区とは**

D I Dとは、Densely Inhabited District の略。

国勢調査の集計の為に設定される統計地域で、人口密度が40人/ha以上の国勢調査の調査区が集合し、合計人口が5,000人以上となる地域。

地域構造図



凡 例	
○	中心核(ふるさと核)
○	地域核
■	行政・賑わい(D I D地区)ゾーン
■	観光ふれあいゾーン
■	海岸ゾーン
■	森ゾーン
■	田園・高原ゾーン
■	高原ゾーン
⇄	広域軸(東西連携交流軸)
⇄	都市軸(ふるさと核連携交流軸)